

管内及び全国鉱山の災害・鉱害等 発生状況について

令和8年5月

関東東北産業保安監督部

管内及び全国鉱山の災害発生状況

災害発生状況

項目 鉱種別	年	関東管内					全国					災害回数比率 (管内/全国)
		災害回数	死	重	軽	計	災害回数	死	重	軽	計	
金属・非金属	R3	2	0	1	0	1	11	0	5	2	7	18%
	R4	0	0	0	0	0	6	0	3	1	4	0%
	R5	1	0	1	0	1	9	1	5	1	7	11%
	R6	3	0	1	0	1	9	0	5	1	6	33%
	R7	1	1	0	0	1	9	1	4	1	6	11%
石灰石	R3	3	0	3	0	3	18	0	11	0	11	17%
	R4	4	0	2	0	2	14	1	4	3	8	29%
	R5	5	0	4	1	5	20	1	13	3	17	25%
	R6	3	0	0	1	1	16	0	5	2	7	19%
	R7	2	0	1	0	1	16	0	7	1	8	13%
石油・天然ガス	R3	2	0	2	0	2	2	0	2	0	2	100%
	R4	2	0	1	0	1	2	0	1	0	1	100%
	R5	3	0	0	1	1	4	0	0	1	1	75%
	R6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	R7	1	0	0	0	0	2	0	1	0	1	50%
石炭	R3	0	0	0	0	0	2	0	1	1	2	0%
	R4	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0%
	R5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	R6	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0%
	R7	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0%
亜炭	R3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	R4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	R5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	R6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	R7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
合計	R3	7	0	6	0	6	33	0	19	3	22	21%
	R4	6	0	3	0	3	23	1	8	5	14	26%
	R5	9	0	5	2	7	33	2	18	5	25	27%
	R6	6	0	1	1	2	26	0	10	4	14	23%
	R7	4	1	1	0	2	28	1	13	2	16	14%

※災害件数、罹災者数：令和3年～令和6年は鉱山保安統計年報の値。自然災害件数は除く。非鉱山労働者は罹災者数から除く。

管内及び全国鉱山等の鉱害等発生状況

鉱害等発生状況

(1) 関東管内事由別発生状況

()内休廃止鉱山:内数

事由／年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
坑廃水		1(0)			
集積場・廃棄物					
油の排出					
鉱煙		1(0)			
風水雪害・震災			1(0)		
その他					
計	0(0)	2(0)	1(0)	0(0)	0(0)

(2) 関東管内鉱種別発生状況

()内休廃止鉱山:内数

鉱種／年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
金属					
非金属					
石灰石					
石油・天然ガス		2(0)	1(0)		
製錬場					
計	0(0)	2(0)	1(0)	0(0)	0(0)

管内鉱山の災害・鉱害等発生状況(令和7年)

令和7年 関東管内災害発生状況(鉱山保安法第41条等による報告)

2025年12月31日現在

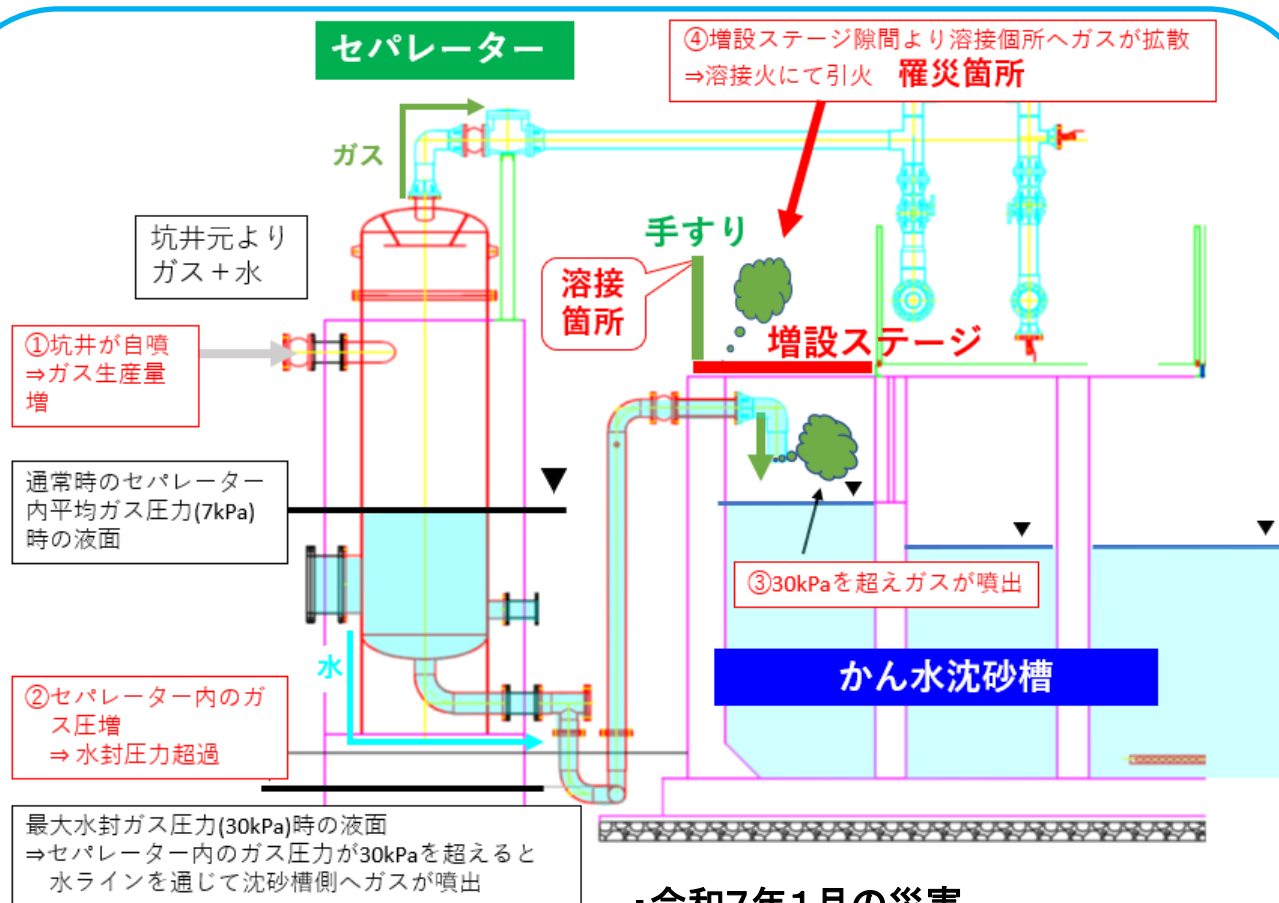
No.	災害発 生月日	都県名	鉱種	り災者数				直轄 or 請負	年 齢	担当職務 経験年数		危害 or 鉱害	災害の種類	概況
				死	重		軽			年	月			
					>4w	4w> 2w								
1	1/22	千葉	可燃性 天然ガ ス	-	(1)	-	-	32	3	3	危害	坑外:火災	関東管内災害概況①参照	
2	4/16	埼玉	石灰石	-	1	-	請負	48	5	11	危害	坑外:墜落	関東管内災害概況②参照	
3	4/26	埼玉	石灰石	-	-	-	-	-	-	-	危害	坑外:発破又は火薬類のため	関東管内災害概況③参照	
4	10/22	東京	けい石	1	-	-	直轄	47	28	6	危害	坑外:その他(転落)	関東管内災害概況④参照	

災害発生件数(関東管内)

危害	4	件
鉱害	0	件
その他	0	件

管内鉱山の災害・鉱害等発生状況(令和7年)

令和7年 関東管内災害概況①



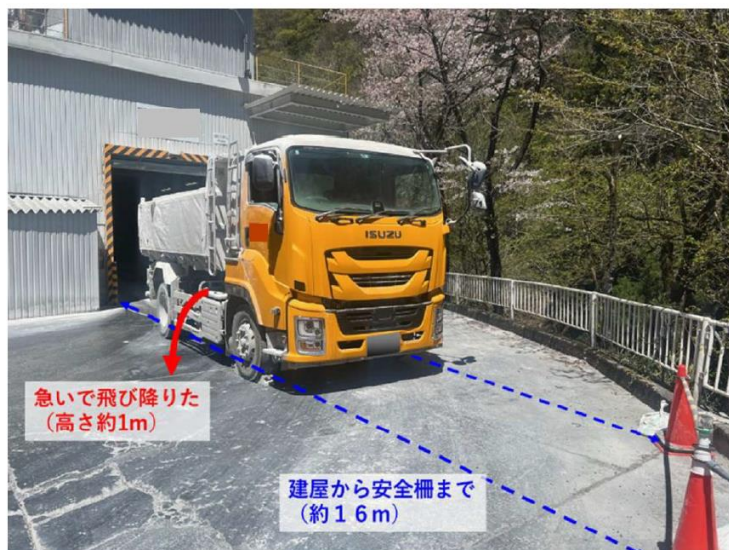
・令和7年1月の災害

罹災者(非鉱山労働者)は、ガス生産基地において、鉱山労働者(直轄)の監督の下、かん水沈砂槽上のステージにおいて、電気溶接器を使用して手すりの溶接作業をしていたところ、坑井から通常よりも高い圧力でメタンガスとかん水が噴出したため、セパレーターで水封抜けが起こり、メタンガスがかん水沈砂槽側に流入し、かん水沈砂槽を覆う縞鋼板製ステージの隙間からメタンガスが噴出、溶接中の火で着火し、手と顔を罹災した。



管内鉱山の災害・鉱害等発生状況(令和7年)

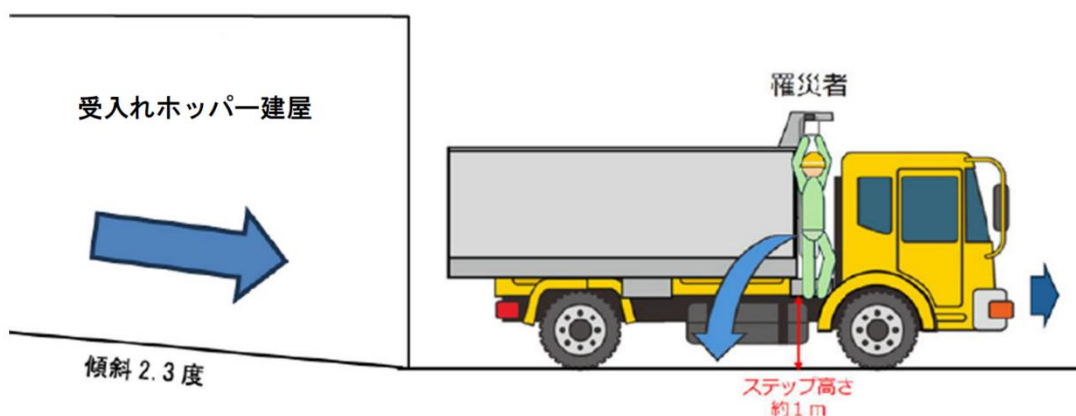
令和7年 関東管内災害概況②



(写真1) 現場の状況



(写真2) 昇降梯子とキャビンステップ



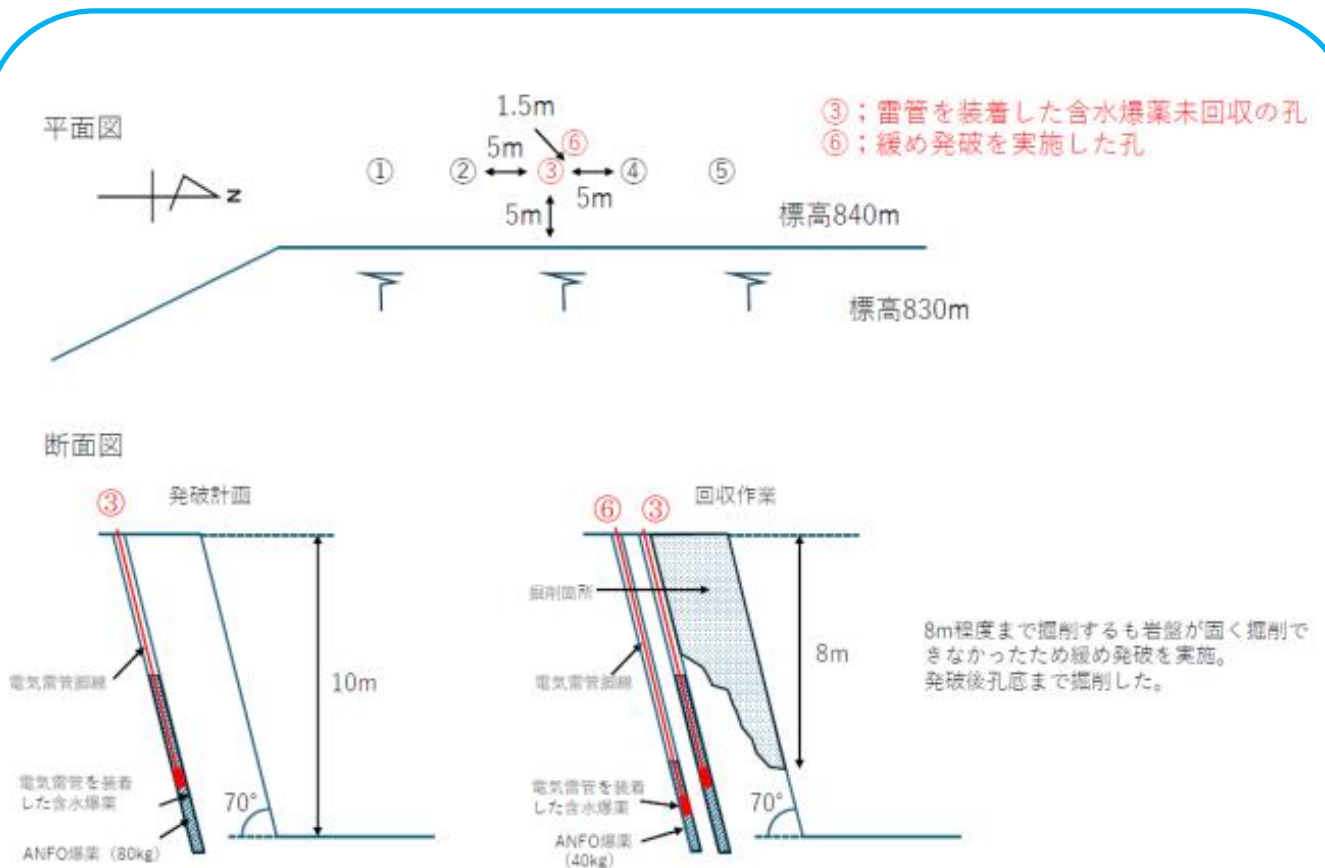
(図) 罹災時の再現

・令和7年4月の災害

罹災者は、製品を受入れホッパーに荷下ろした後、ダンプトラックに製品が残っていないかを確認するため、ダンプトラックを停車し、荷台用の昇降梯子を使用して荷台を覗き込んだ。その際、パーキングブレーキのロックを確認せず輪止めもしていなかった。荷台確認中、ダンプトラックが動き出したため、キャビンのステップから飛び降り着地した際、右足を罹災した。

管内鉱山の災害・鉱害等発生状況(令和7年)

令和7年 関東管内災害概況③



・令和7年4月の災害

採掘場の発破予定箇所において、発破前の導通試験を実施したところ、5本中1本の導通が確認できなかったため、他の4孔の発破後に機械掘削で親ダイを回収する方針を決定した。他の4孔発破後に油圧ショベル2台を使用して回収を開始したが、岩盤が固く掘削が困難であるため、当該孔から1.5mほど離れた位置に緩め発破を実施し油圧ショベルによる掘削を進めたが、脚線が確認できなくなった。その後、スケルトンバケットを使用して石の篩い分けによる回収作業を行うも不発雷管は見つからなかったが、同年9月、山積みになっていた篩い分け後の石灰石の中から不発雷管を発見した。その後、通常発破において当該不発雷管を親ダイとともに装填し殉爆させた。

管内鉾山の災害・鉾害等発生状況(令和7年)

令和7年 関東管内災害概況④

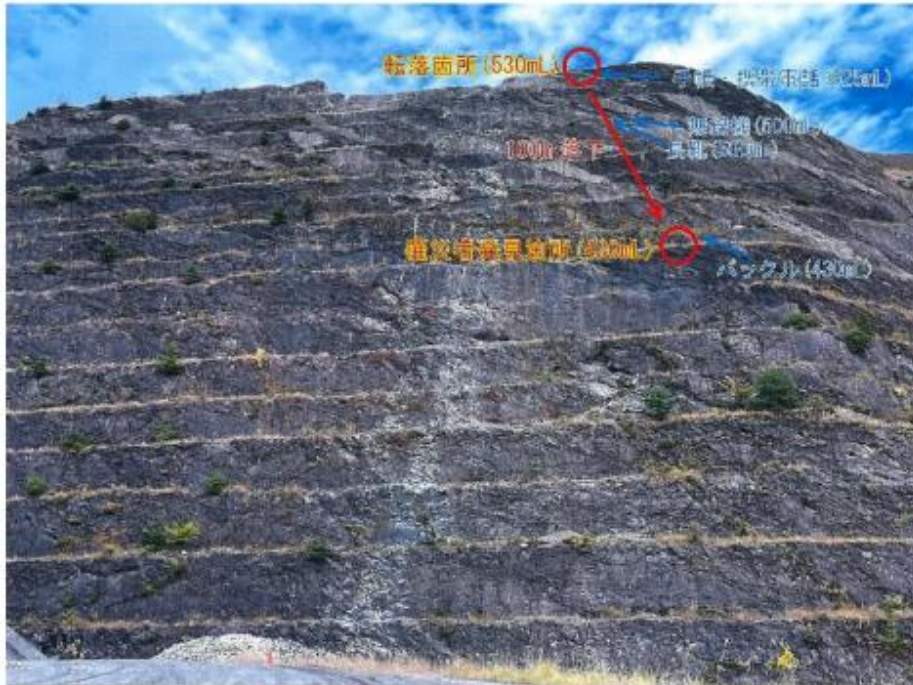


写真1. 罹災者転落推定箇所及び発見箇所 (352mLより撮影)

・令和7年10月の災害

採掘担当の職長Aは、無線で採掘担当の主任Bへ、採掘場の端縁処理作業を行うので作業箇所下部への立入禁止措置と警戒に当たる様指示し、Bは採掘場下部の埋立場の立入禁止措置箇所付近で警戒業務について。その後Aは、パワーショベルを使い端縁処理作業を開始した。端縁の最前面には残存岩塊や土盛が設けられており、作業開始後Aは罹災者Cが端縁ぎわの上に立っているのを見た。また、Bも罹災者がパワーショベルから東に約20m離れた端縁に立ち、端縁処理作業の様子を眺めているのを見た。その後、Bが、ベンチから人が残壁沿いに滑落し、約100m下がった小段まで転落するのを目撃した。BはすぐにAへ「人が転落した」旨を無線連絡した。連絡を受けたAは、すぐに罹災者Cが居た場所を確認したが、罹災者Cの姿はなかった。その後、数名で人が落ちていると思われる場所へ入っていける小段を探しに行ったところ、転落箇所から約100m下の残壁の小段に罹災者Cが倒れているのを発見した。消防及び警察が事務所に到着し、救急隊員により罹災者の搬出活動を開始し、近隣の病院に搬送されたが、病院にて罹災者Cの死亡が確認された。